

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)9222
担当部課名	保健福祉部	地域福祉	課	福祉推進 班
事務事業名	社会福祉功労者、福祉作文等入賞者表彰費		事業コード	11130

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	安心して生活できる福祉社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第1節	福祉文化の創造とバリアフリーの推進	~63
施策名	第3施策	バリアフリーによる福祉のまちづくり	

2 実施根拠及び関連法令等

相模原市表彰状等贈呈規程、社会福祉功労者等表彰要綱、社会福祉功労者等表彰基準、平成13年度福祉月間ポスター・作文募集要領

3 事業概要

(1) 事業の目的	(2) 対象(誰、何)
社会福祉の増進に功労があった人又は団体及び福祉作文等の入賞者に対し表彰等の意を表することにより、「みんなで広げる福祉の輪」をテーマに掲げ、心のかよいあつ明るい福祉のまちづくりを推進することを目的とする。	社会福祉向上に尽力した方、障害者等を積極的な雇用の事業所、福祉作文等を作成した小・中学生
	対象数
	社会福祉の推進者
(3) 平成13年度事業の内容	(4) 総合計画・実施計画における概要
1 市内小・中学校より福祉ポスター・作文の応募作品数 ・ポスター応募作品数 1,772(内入賞12) ・作文応募作品数 1,412(内入賞12) 2 関係各課・機関・団体からの社会福祉功労者の内申数 ・個人42名、事業所1を表彰(団体は0) 3 福祉ポスター・作文審査会開催 1回 4 社会福祉功労者表彰選考委員会開催 1回 (委員謝礼 9千円) 5 福祉のつどい(平成13年9月23日)にて社会福祉功労者及び優秀な福祉作文等作成者に対し、表彰状等贈呈	福祉啓発の促進
	(5) 個別計画の概要
	計画名なし
	計画年次
	年度~
	年度

4 評価指標

指標名	福祉ポスター・作文の作品応募率	被表彰対象者率
指標式	当該年度の応募者数 / 前年度の応募者数 × 100	*数値化不能(内申は他課・他機関から提出されるため)
指標設定の意図	応募率の増減により次代を担う子供達の社会福祉推進に対する関心度をある程度量ることができる。	被表彰者が増えることにより、社会福祉への理解者が増加しているものと考えられる。

5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	102.3	91.6	a 94.1	b 101.0	101.0	
指標			c	d		
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	1,477	1,282	1,041	1,327	1,190
	人員・時間数	0.3人	0.3人	0.3人	0.3人	0.4人
	人件費	2,526	2,526	2,526	2,526	3,368
	その他経費	0	0	0	0	0
合計	4,003	3,808	3,567	3,853	4,558	
特定財源	0	0	0	0	0	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 93.1%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%>)		
$\frac{a}{b}$	$\frac{94.1}{101.0} \times 100 = 93.1\%$	$\frac{c}{d}$	$\times 100 =$
$\frac{e}{f}$	$\times 100 =$		
理由 :	今後も事業を継続することにより、更により良い福祉のまちづくりを目指すことができる。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由 :	受賞者の更なる意欲向上と受賞者が未受賞者の目標にもなっているため必要と考える。
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A : 妥当である	理由 :	人件費は、内申書や応募作品受付、またそれらの審査資料作成等必須事務量から現段階では妥当と考える。また、事業決算額には記念品代が含まれるが障害者地域作業所へ作成依頼をしており、相対的な効果を得ていると考える。
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由 :	「福祉」という広い意味では社会福祉団体等との協力は必要だが、日ごろからの尽力に対して市としての感謝の意を表すこと及び今後の活動に対しては国等上位の表彰等に内申することを考え、民間等への代替性はない。
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 A ▼	A : 満足できる	理由 :	受賞を今後の活動の励みとして更なる活動への意欲増進となることからほぼ満足していると考え。
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A : 有効である	理由 :	さまざまな福祉活動に対し表彰や感謝の意を表すことにより、意欲の向上を促すことができる。また、この事業を知りこれから福祉活動を行う個人や団体が生まれるとすると、更に事業の効果が上がる。
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p> <p>「福祉」という分野は常により良い状態を求めていく必要がある。</p>
	コスト改善余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p> <p>社会福祉功労者表彰の内申方法について、パソコン化の検討などにより、担当としての事務量が削減できるかを探り、改善する。</p>

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	
今後の進め方		説明	今後もより良い「心のかよいあう明るい福祉のまちづくり」を推進するため事業を継続し、対象者が活動していく中で目標となるような事業としたい。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--